

## 南砺市立福光美術館コレクション

### 石崎光瑠 — 熱国に魅せられた花鳥画家 —

4月25日(土)～6月21日(日)

前期:4/25～5/24 後期:5/26～6/21

近代京都画壇で活躍した石崎光瑠の回顧展です。1884年富山に生まれた光瑠は19歳で京都の竹内栖鳳門下となり、1912年第6回文展で初入選。以後官展を舞台に腕を揮います。一方、登山家としても足跡を残し、国内に留まらずインド・ヒマラヤ山脈も訪ね、そこで出会った熱帯花鳥に魅了され艶やかな画境を創出しました。本展では代表作《燦雨》をはじめ、各時代の佳作や下絵・スケッチなどの資料類も交え、50年に及ぶ画業を振り返ります。



石崎光瑠《燦雨》(左隻) 大正8年(1919) 通期展示

## 岩倉 壽生誕90年記念

### 岩倉 壽と鳥頭尾 精 — 鳥と自然と —

7月17日(金)～9月13日(日)

前期:7/17～8/9 後期:8/21～9/13

近年当館の新たなコレクションに加わった岩倉 壽と鳥頭尾 精。本展では、独自の視点でひたむきに対象と向き合う岩倉と鳥頭尾の作品をあわせて紹介します。岩倉は2018年に惜しくも世を去りましたが、穏やかな視線で捉えた風景画は今も多くのファンを惹きつけます。一方、鳥頭尾は生まれ育った奈良明日香を画題に取り上げ、さらなる進化を遂げています。日展、創画会と活躍の場は違っても自然の神髄に迫ろうと試みた二人、響き合う画境をご覧ください。



鳥頭尾 精《青い白い鳥》昭和45年(1970) 個人蔵 前期展示

## 伊豆市近代日本画コレクション

### 修善寺を愛した画家

— 横山大観・小林古径・安田靉彦・前田青邨・川端龍子など —

10月9日(金)～12月6日(日)

前期:10/9～11/8 後期:11/11～12/6

横山大観や安田靉彦など、伊豆・修善寺に集った画家たちを紹介する企画です。1872年創業の新井旅館は文人・画家たちに愛された老舗旅館。3代目主人相原寛太郎は彼らを支援する一環として作品を収集し、一大コレクションを形成しました。平成元年伊豆市に寄贈されたそれらの作品を中心に、充実した同市のコレクションをまとめて公開します。大家となった画家たちが同志と語り、憩った交流の軌跡をたどります。



横山大観《松竹遊禽》大正元年(1912)頃 前期展示

## 名都美術館開館40周年記念

### 美の化身 画家たちのミューズ

— 追い求めた理想 —

2027年1月26日(火)～3月14日(日)

近世以降主要なモチーフとして描かれてきた女性像。美人画というジャンルが人気を博しつつも、人物画や肖像画など時代の変化に伴って解釈も多様化し、様々な女性像が創出されています。本展では画家の前に降臨したミューズたちに刺激を受けて制作された女性像を通して作家たちが画面に託した制作意図を探るほか、花や鳥に女性美を重ねた作品も展覧します。



新収蔵品  
北田克己《風の称号》  
令和3年(2021)  
名都美術館

2026年						2027年								
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
石崎光瑠 — 熱国に魅せられた花鳥画家 — 4月25日(土)～6月21日(日)						岩倉 壽と鳥頭尾 精 — 鳥と自然と — 7月17日(金)～9月13日(日)			修善寺を愛した画家 — 横山大観・小林古径・安田靉彦・前田青邨・川端龍子など — 10月9日(金)～12月6日(日)			美の化身 画家たちのミューズ — 追い求めた理想 — 1月26日(火)～3月14日(日)		